

令和3年3月2日（火）

3月の全校朝会（放送朝会） 講話

みなさん、おはようございます。

3月になりました。ここのところ、汗ばむほどの暖かい日があったかと思っ
たら、急に風が冷たく寒い日が続くといったことがありました。これを「三寒
四温」といいます。「寒」は寒いという字で、「温」は暖かいという字ですね。

「3日間寒いけど、4日間は暖かいよ」ということです。毎年、今の時期、寒
い日と暖かな日を繰り返し、だんだんと暖かな日が多くなり、本当の春になっ
ていくのです。

日本には、春・夏・秋・冬という季節があります。4つの季節で「四季」と
いいますね。当たり前のように感じますが、世界には200以上もの国がある
のに、日本ほど四季のはっきりしている国も珍しいといわれています。世界に
は1年中暑かったり、逆に1年中寒かったりする国も多いのです。だから、日
本では春夏秋冬を大切にして、季節ごとにふさわしい言葉が発達していった
のです。

1月には、大きく寒いと書いて「大寒」という日があります。2月には、春
が立つと書いて「立春」、3月には祝日にもなっている「春分」といった言葉
を聞いたことがあると思います。

同じ言葉で、今年の3月5日は「啓蟄」という日です。

「啓蟄」とは、どういう日かというと、啓は「ひらく」、蟄（ちつ）は「土
中で冬ごもりしている虫」の意味で、この頃になると大地も暖まり、春の陽
気に誘われて冬ごもりしていた土の中の虫たちが動き始める、ということ
です。

校長先生のうちの話ですけど、私のうちの子供たちが小さいときに、うちではよく小さな生き物を飼っていました。クワガタとか、鈴虫とか。カブトムシのオスとメスをとってきてケースに入れていたら、卵を産んで30匹以上の幼虫になったこともあります。

池で釣ってきたザリガニを飼っていたこともありました。冬になるとトンネルの中に入ったきりで、餌も食べなくなりました。そのままにしておいたら、春になり急にモゾモゾと動き始めたのです。それがちょうど3月5日の啓蟄の日だったので、「自然ってすごいな〜」とびっくりしたものです。

もちろん、冬眠から覚めるのが全て啓蟄の日というわけではありませんが、活動を始められる季節になりました、ということなのです。

活動を始めるのは虫たちばかりではありません。色とりどりの花も咲き始めます。人にとっても、春は動きたくなる時期ですね。

春は別れの季節でもあり、出会いの季節でもあります。6年生は小学校を卒業して、中学生になります。1年生には下の学年の子が入学してくるし、5年生は北谷小の最高学年となります。ほかの学年の皆さんも1つ学年が上がります。この3月は、その心構えを持つ月だと思います。今までにやり残したことや、やるべきことでまだやっていないことなどをしっかりやっていきましょう。1年間一緒に勉強してきたクラスの仲間たちや先生と最後まで楽しく生活していきましょう。そして、新たな気持ちで4月を迎えてください。

以上で、お話を終わりにします。